

ダビデと神の箱

(サムエル6・1〜23)

一、事件

2節をご覧ください。〈ダビデはユダのバアラから神の箱を運び上ろうとして、自分につくすすべての民とともに出かけた。神の箱は、ケルビムの上に座しておられる万軍の主の名で呼ばれている。〉とあります。〈バアラ〉と書かれています。『キリヤテ・エアリム』(サムエル7・1〜2参照)の別名だったようです。そこはペリシテ人の管轄下にあつたようで、ダビデは神の箱をエルサレムに運び入れることによって、自分が王とされたことを完成させたかったようです。こうして、神の箱はダビデ王の命令によってアビナダブの家から運び出されました。箱は車の上に載せられ、アビナダブの子たち、おそらく孫と思われるが、ウザとアフヨが車を御していました。ところが、6節をご覧ください。〈こうして彼らがナコンの打ち場まで来たとき、ウザは神の箱に手を伸ばして、それを押さえた。牛がそれをひっくり返しそうになったからである。〉とあります。新共同訳は〈牛がよろめいたので〉と訳出しています。いずれにしても、車がひっくり返りそうになったのでありましょう。倒れないようにと、ウザが神の箱に手を触れると、

彼は死んでしまいました。7節です。〈すると、主の怒りがウザに向かつて燃え上がり、神は、その不敬の罪のために、彼をその場で打たれたので、彼は神の箱のかたわらのその場で死んだ。〉とあります。もし今日、同じようなことが起きるならば、「神が打たれた」とは決して言いません。原因を究明することでありましょう。では、聖書に書かれている記述は時代遅れなのでしょうか。そうではありません。たといウザが心臓疾患のような持病を持っており、神の箱がひっくり返りそうになったときに、びっくりして心臓発作を起こしたとしても、聖書が語っている意味は、〈主の怒りがウザに向かつて燃え上がり、神は、その不敬の罪のために、彼をその場で打たれたので、彼は神の箱のかたわらのその場で死んだ〉です。神の箱の取り扱いについて、間違つた取り扱いをしたがゆえに打たれた。これが、ダビデをはじめとする当時の人々の受け止め方であり、たいへんに衝撃的な事件であつたようです。と言いますのは、8節に〈ダビデの心は激した。ウザによる割りこみに主が怒りを発せられたからである。それで、その場所はペレツ・ウザと呼ばれた。今日もそうである。〉と書かれています。今日もそうである。〈ダビデの心は激した〉とは「怒った」の意味です。同時に、ダビデは主への恐れを抱きました。9節です。〈その日ダビデは主を恐れて言った。

「主の箱を、私のところにお迎えすることはできない。」と。こうして、神の箱はガテ人オベデ・エドムの家に預けられました。ガテはペリシテ人の町の名前であり、オベデ・エドムという名は「エドムのしもべ」の意味ですから、異教徒に託したと言ふことになりません。ダビデは神の箱から距離をおきたかったのでありましょう。

二、ダビデと神の箱

ところが、神の箱がオベデ・エドムの家に安置されると、この家は祝福されました。「祝福された」とは、当時の人々の価値観による祝福ですから、家畜が子供をたくさん産んだとか、作物が豊作であつたとか、そういう類いのことだつたのでありましょう。その知らせはダビデ王に伝えられました。

そこでダビデは、神の箱をオベデ・エドムの家からダビデの町、すなわちエルサレムに運び入れました。その時のダビデの姿に、時代と文化を超えて、私共を感動させるものがあります。13節、14節です。〈主の箱をかつぐ者たちが六歩進んだとき、ダビデは肥えた牛をいけにえとしてささげた。ダビデは、主の前で、力の限り踊つた。ダビデは亜麻布のエポデをまとつていた。〉とあります。〈主の箱をかつぐ者たち〉とは祭司たちです。主の定めに副つた行いです。〈亜麻布のエポデをまとつていた〉とは、ダビデの妻ミカルがと語つた言葉(20節)から分かるように、ほぼ裸だったのでありましょう。ダビデが裸同然で踊つた理由は、主をほめたたえ、主を喜ぶことでした。そのようなダビデ王の姿を目にして、「イスラエルの王として、ふさわしい行為ではない。威厳がない」と思つたのはミカルだけではなかつたと思われまふ。ですが、ダビデ自身は気に止めていません。むしろ、確信があつたようです。それはこういふことだつたと思われまふ。「私が王になつたのは、神による。自分がなりたくてなつたのではない。だから、人々がさげすもうとも、私は主を喜ぶ。主をほめたたえる」と。

「私がやり遂げました。私がかんばつたので今日があります」という自我から解放されて、自分の人生を主に任せようになる。これこそは、たましいに救いを得た者の姿です。ダビデは神の恵みに捕らえられて、善いものを残しました。その後、大きな失敗を犯し、そのことのゆえに苦しみました。そのうちではあつても主に栄光をささげたいと願っている人でした。それは、ダビデ自身の偉大さではなく、神の恵みに捉えられた者の姿です。

私たちも、神の恵みに捕らえられ、神の恵みに生かされるなら、ダビデのようになりまふ。神の恵みとは何でしょうか。イエス・キリストです。